

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2001-243148
(P2001-243148A)

(43) 公開日 平成13年9月7日(2001.9.7)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	デコード [*] (参考)
G 0 6 F 13/00	3 5 4	C 0 6 F 13/00	3 5 4 D 5 B 0 2 0
3/02	3 6 0	3/02	3 6 0 C 5 B 0 7 5
17/30	1 1 0	17/30	1 1 0 C 5 B 0 8 9
	3 2 0		3 2 0 C 5 K 0 6 7
H 0 4 Q 7/38		H 0 4 B 7/26	1 0 9 H

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 5 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願2000-56205(P2000-56205)

(22) 出願日 平成12年3月1日(2000.3.1)

(71) 出願人 500059313

株式会社バグジィ

東京都渋谷区恵比寿2-6-31

(72) 発明者 戸田 乃三郎

東京都渋谷区恵比寿2丁目6番31号二葉ビル3F 株式会社バグジィ内

(74) 代理人 100091225

弁理士 仲野 均 (外1名)

Fターム(参考) 5B020 AA02 BB02 FF24

5B075 NR05 PP12 PP22 PP30 PQ02

5B089 GA25 HA10 HA13 JA24 KA03

KB07 KC44 KH03 LB14

5K067 AA21 BB04 DD51 EE02 FF07

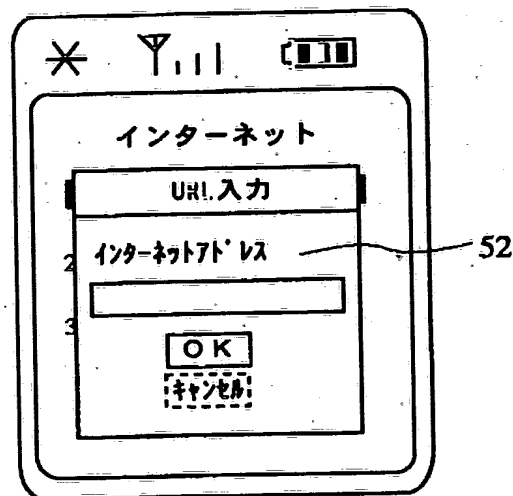
GC01 HH13

(54) 【発明の名称】 携帯電話によるインターネットへのアクセスシステムおよびインターネットにアクセス可能な携帯電話

(57) 【要約】

【課題】 携帯電話により長く複雑な文字列のURLを意識させることなく、このURLに対応する比較的短い番号を入力するだけでインターネットにアクセスさせることができるインターネットへのアクセス技術を提供すること。

【解決手段】 図5のURLの入力画面で、複雑なURLの文字配列の代わりに例えば、「*」と「1376」といった4桁の数字を入力する。ここで、URLと4桁の数字の対応は、図8に示すような所定の対応辞書で行う。この方式によれば、9999個のURLを登録することができる。この対応辞書は、基地局に設置してもよく、インターネットのプロバイダが保持していてもよい。また、ROM(リード・オンリ・メモリ)に記憶させて、携帯電話自体が保持していてもよい。なお、5桁の数字を用いることも当然可能である。5桁の数字を使用すれば、99999個のURLを登録することができる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 情報を表示するための表示部を備えた携帯電話と、所定のサーバとがネットワーク上に接続され、このネットワーク上に存在するサーバが保持する情報資源にアクセスするためのURLを用いたインターネットへのアクセスするシステムにおいて、予め所定のURLに対し、任意の桁数の数字を割り当て、この割り当てられた数字を前記携帯電話から入力する入力手段と、この入力手段より入力された数字に対応するURLを検索する検索手段と、このURLに対応するサーバ上に存在する情報資源を取得する取得手段と、この取得手段で取得した情報資源を前記携帯電話上の表示部にに表示する表示手段と、を備えたことを特徴とする携帯電話によるインターネットへのアクセスシステム。

【請求項2】 予め所定のURLに対し、任意の桁数の数字の割り当てが、*と4桁の数字であることを特徴とする請求項1記載の携帯電話によるインターネットへのアクセスシステム。

【請求項3】 予め所定のURLに対し、所定の桁数の数字を割り当てた辞書データを備え、当該所定の桁数の数字を入力することで、前記辞書データを参照してURLの入力作業を代行することを特徴とするインターネットにアクセス可能な携帯電話。

【請求項4】 予め所定のURLに対し、所定の桁数の数字を割り当てた辞書データをインターネットを介して当該携帯電話がダウンロードすることを特徴とする請求項3記載のインターネットにアクセス可能な携帯電話。

【請求項5】 予め所定のURLに対し、所定の桁数の数字を割り当てた辞書データを作成するに際し、URLの保持主体の電話番号下4桁と同一の4桁数字を割り当てることを特徴とした請求項3または請求項4記載のインターネットにアクセス可能な携帯電話。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、携帯電話によるインターネットへの接続に関し、特にURL(ユニフォーム・リソース・ロケータ、Uniform Resource Locator)を簡単に携帯電話に入力する技術に関する。

【0002】

【従来の技術】近年、携帯電話は、その利便性と料金の低下により驚異的な勢いで普及している。この携帯電話のシステムは、サービスエリアに設置された基地局と、電話機本体である複数の端末装置で構成されている。ユーザーが通話をして、その音声を電気信号に変換するしくみは、通常の加入電話と同様であるが、最大の相違点は、その電気信号が電波に乗せられて最寄りの基地局に届くことである。通常携帯電話を使用する場合、セルと

呼ばれる1基地のエリア内で端末である携帯電話と電波のやり取りが行われる。ここで、セル毎で使用される周波数は異なるが、同一のセル内で同じ周波数を複数の端末が共有している。この方式を多重接続と呼び、FDM A、TDMA、CDMAの方式が知られている。ところで、1999年から、各携帯電話会社は、音声通話だけでなく、インターネットに携帯電話から接続できるサービスを開始している。このサービスは、若年層を中心に圧倒的な指示を受け、携帯電話の更なる普及に大きく貢献している。このサービスの主な内容は、インターネットのホームページの表示(種々の制約はあるが)、電子メール機能、およびニュース、天気予報などの情報コンテンツの表示である。

【0003】この携帯電話でインターネットを利用できるサービスでは、HTML(HyperText Markup Language)を利用するものがある。HTMLを利用するメリットは、全世界に既に存在する既存のHTMLコンテンツをそのまま活用できることである。そのため、ホームページの提供者が、二重にホームページを作成する負担もない。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】ところで、携帯電話を介して、インターネットを利用してホームページにアクセスする際、ユーザーがわざわざURLを携帯電話端末から入力しなければならない。パソコンを使ってインターネットにアクセスする際は、キーボードからURLを入力するので、少々面倒であるが、入力にはそれほど困難なことではない。一方で、携帯電話からURLを入力する場合は、片手で、それも親指で操作しなければならない、かなり煩わしい作業となる。一般に、URLは、雑誌、新聞、テレビなどのメディアで告知される場合が多く、また、名刺等に印刷されていることもある。このURLは、アルファベットによる文字データであり、これが長く複雑である(コロン、スラッシュ、大文字、小文字)。一方で、インターネットを介してコンテンツを提供する業者は、この複雑なURLを広くユーザーに認識してもらうために、広告等で懸命に告知しているのが現状である。このような環境で、携帯電話のユーザーは、長く、複雑なURLを覚えるか、雑誌等を見ながら、さらに、これを片手で携帯電話に入力しなければならない状況にある。そこで、携帯電話からインターネットにアクセスする際、複雑なURLを簡単に入力できる仕組みが望まれていた。

【0005】そこで、本発明の目的は、携帯電話により長く複雑な文字列のURLを意識させることなく、このURLに対応する比較的短い番号を入力するだけでインターネットにアクセスさせることができるインターネットへのアクセス技術を提供することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】請求項1記載の発明で

は、情報を表示するための表示部を備えた携帯電話と、所定のサーバとがネットワーク上に接続され、このネットワーク上に存在するサーバが保持する情報資源にアクセスするためのURLを用いたインターネットへのアクセスするシステムにおいて、予め所定のURLに対し、任意の桁数の数字を割り当て、この割り当てられた数字を前記携帯電話から入力する入力手段と、この入力手段より入力された数字に対応するURLを検索する検索手段と、このURLに対応するサーバ上に存在する情報資源を取得する取得手段と、この取得手段で取得した情報資源を前記携帯電話上の表示部にに表示する表示手段と、を備えたことにより、前記目的を達成する。

【0007】請求項2記載の発明では、請求項1記載の発明において、予め所定のURLに対し、任意の桁数の数字の割り当てが、*と4桁の数字であることにより、前記目的を達成する。

【0008】請求項3記載の発明では、予め所定のURLに対し、所定の桁数の数字を割り当てた辞書データを備え、当該所定の桁数の数字を入力することで、前記辞書データを参照してURLの入力作業を代行することにより、前記目的を達成する。請求項4記載の発明では、請求項3記載の発明において、予め所定のURLに対し、所定の桁数の数字を割り当てた辞書データをインターネットを介して当該携帯電話がダウンロードすることにより、前記目的を達成する。請求項5記載の発明では、請求項3または請求項4記載の発明において、予め所定のURLに対し、所定の桁数の数字を割り当てた辞書データを作成するに際し、URLの保持主体の電話番号下4桁と同一の4桁数字を割り当てることにより、前記目的を達成する。

【0009】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の好適な実施の形態を図1ないし図9を参照して、詳細に説明する。図1は、携帯電話によるインターネットサービスの基本的な仕組みを説明する図である。このサービスでは、通常の音声通話に加えて各種サービスが提供されている。具体的には、銀行口座の残高照会、振り込み、レストランガイド等の各種のオンラインサービス、インターネットを介しての電子メールの送受信、ホームページへのアクセスが可能となっている。このシステムのデータ通信方式は、パケット通信方式を利用しているので、通信時間による課金でなく、送受信したデータの量で課金されるので、ユーザーは、通信時間を気にせず、時間をかけて情報にアクセスできるようになっている。

【0010】ところで、このサービスでは、携帯電話の画面がパソコンに接続されたCRTまたは液晶画面に相当する。図2は、このような携帯電話の外観を示した図である。この図に示すように、携帯電話50は、表示部52と各種キー54およびアンテナ56より構成されている。そして、この携帯電話50には、インターネット

にアクセスするための専用キー58が設けられており、このキーを押下することにより、インターネットへアクセスするサービスが受けられるようになっている。

【0011】そこで、この専用キー58を押下すると、図3に示すモードメニュー画面が表示される。この画面には、インターネット以外にもユーザー利用できる各種メニューが表示される。この画面でユーザーが5のインターネットを選択すると、図4に示す画面が表示され、URL入力かURLの履歴を選択する画面となる。ここで、1のURL入力を選択すると、図5に示すURLの入力を求める画面となる。ここで、ユーザーが、URLを示す各種キー54を使用して、この画面にURLを入力する。例えば、特許庁のURLは、「http://www.jpo-miti.go.jp/indexj.htm」なので、これを各種キー54を使って入力する。ユーザーが入力を終え、OKを選択すると、図6に示す画面が表示され、URL編集を行う。そして、URL編集が終了すると、入力されたURLが編集されて表示される。図7に示す画面となり、最終的にホームページにアクセスする許可を求めてくる。ここで、「OK」をユーザーが選択すると、当該携帯電話がインターネットにアクセスし、指定されたホームページのデータを取得する。そして、取得したホームページは、携帯電話50の表示面52に表示される。

【0012】ところで、一般にURLは、上記したように、欧文文字、数字、コロンなどからなり、パソコンのキーボードから入力するのも面倒であり、且つ入力ミスが多く発生し、何度も入力をやり直さなければならないのが実状である。特に、携帯電話より入力する場合は、入力が困難である。そこで、本実施の形態では、*と4桁の数字で入力できるようにする。具体的には、図5のURLの入力画面で、複雑なURLの文字配列の代わりに例えば、「*」と「1376」といった4桁の数字を入力する。

【0013】ここで、URLと4桁の数字の対応は、図8に示すような所定の対応辞書で行う。この方式によれば、9999個のURLを登録することができる。この対応辞書は、基地局に設置してもよく、インターネットのプロバイダが保持していてもよい。また、ROM（リード・オンリ・メモリ）に記憶させて、携帯電話自体が保持していてもよい。なお、この実施の形態では、4桁の数字を用いた例を説明したが、5桁の数字を用いることも当然可能である。5桁の数字を使用すれば、99999個のURLを登録することができる。

【0014】次に、URLに対応した4桁の数字の告知方法について説明する。このシステムによるURLの入力を行うには、ユーザーに該当する4桁数字を認識させることが前提条件となる。そのため、この4桁数字を広くユーザーに告知するかが重要となる。この告知の方法として、各企業、学校、役所、病院などがホームページを開設し、これを告知したい場合は、雑誌、新聞に掲載

する広告、駅や電車内の看板や車内広告、テレビCM等にURLを表示すると同時に4桁の数字も同時に掲載する。また、携帯電話には、通常、電話番号を記憶するメモリ機能が備わっているが、電話番号の下4桁とこのURLに対応した4桁の数字とを一致させることにより、わざわざ検索したり手帳等にメモすることなく、4桁数字を手入することができる。

【0015】一方、4桁の数字とホームページの開設主体を語呂合わせや周知の番号を使って告知する方法もある。例えば、温泉のホームページであれば、「4126（よいふろ）」、消防署であれば、「0119」等である。また、ユーザーや一般消費者からの問い合わせが多い業者では、留守番電話にホームページのURLと携帯電話からアクセスする場合は、この番号を使用くだされとのメッセージと共に、この4桁数字をアナウンスすることもできる。また、ホームページ自体にもこの4桁数字を表示して、再度当該ホームページにアクセスする際にその4桁番号を使用する旨を表示することもできる。ホームページにリンクを張る際、リンク先のURLとこの4桁の数字を必ず表示するようにするとよい。リンク先のURL上にマウスをおくことで、当該URLが4桁の数字に変換されるようにしてもよい。

【0016】他の告知方法として、パソコン、カーナビまたは携帯電話で使用する地図データにURLとこの4桁数字、またはこの4桁数字のみを保持させておき、何らかの方法、例えば、地図上の建物をマウスでクリックすれば、そこに存在する会社のURLないしこの4桁数字を表示するようにしてもよい。例えば、カーナビを使用中に駐車場の場所をクリックすると、その4桁数字をカーナビの画面上に表示し、携帯電話でアクセスすることで、当該駐車場の利用状況を車内から把握することができる。

【0017】以上は、この4桁数字を告知する方法を説明してきたが、携帯電話の販売時にこの番号をメモリにプレインストールしておくこともできる。また、当該携帯電話を利用して、インターネットを介してデータをダウンロードして番号を取得するようにしてもよい。さらに、既存の携帯電話には、特定の業者により、データを

記憶したメモリをインストールしてこれらの数字を取得できるようにしてもよい。仮に、携帯電話の販売時にこの4桁数字をインストールしておけば、かなりの数のユーザーのアクセスが期待でき、相当の広告効果を得ることができる。

【0018】このような携帯電話のインターネットへの簡易アクセスサービスは、携帯電話サービスを提供している業者だけでなく、他の業者にも可能である。すなわち、特定のホームページを開設し、そこにアクセスしたユーザーに4桁数字を入力させることで、該当するホームページへアクセスさせるようにすればよい。

【0019】

【発明の効果】本発明によれば、複雑なURLを入力しなくても、簡単な数字を入力するだけで、携帯電話を介して簡単にインターネットにアクセスすることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】携帯電話使用したインターネットに接続するシステムの概要を示した図である。

【図2】携帯電話の外観を示した図である。

【図3】携帯電話のメニュー画面の一例を示した図である。

【図4】携帯電話のインターネットのアクセス画面の一例を示した図である。

【図5】URL入力画面の一例を示した図である。

【図6】URL編集画面の一例を示した図である。

【図7】インターネットにアクセスする旨の許可を得るための画面の一例を示した図である。

【図8】インターネットにアクセスし、データを取得している状態を示す画面の一例を示した図である。

【図9】番号とURLの対応関係を示した辞書一例を示した図である。

【符号の説明】

50 携帯電話

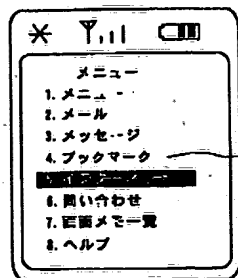
52 表示画面

54 各種キー

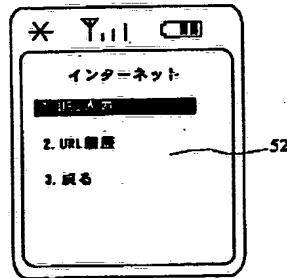
56 アンテナ

58 選択キー

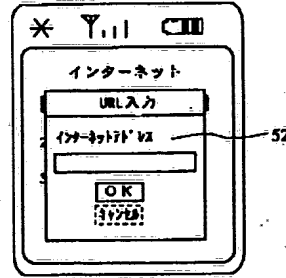
【図3】



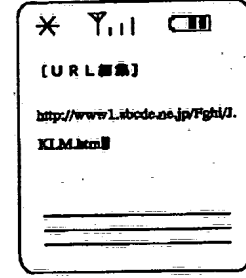
【図4】



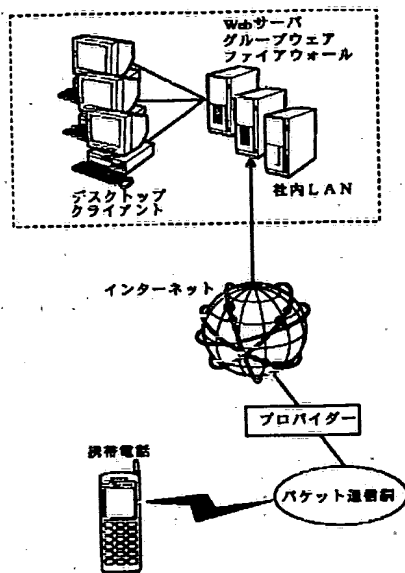
【図5】



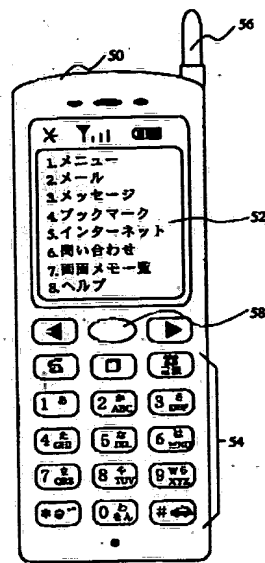
【図6】



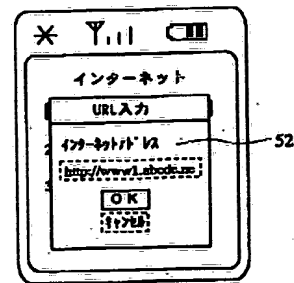
【図1】



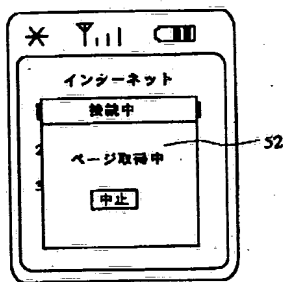
【図2】



【図7】



【図8】



【図9】

番号	URL
0001	http://www.houkagoo.cngalnet.jp/
0002	http://www.otaroku.nokogiri.ne.jp/
0003	http://www.kurobei.com/
0004	http://www.tasuman.kun.ne.jp/
...	...
9999	http://www.bonobono.redbox.co.jp/

フロントページの続き

(51)Int.Cl.⁷

識別記号

F I
H 0 4 B 7/26

1 0 9 Q

(参考)